

日本人に就て

——中島健蔵氏へ質問——

坂口安吾

青空文庫

健蔵兄、作品社から「中島健蔵氏へ質問」といふものを書けといふことで、文学には多々疑惑のみ溢れがちな日常ではあり渡りに舟と引受けたのですが、さて引受けてみて吃驚びっくりしました。なるほど疑問は次から次へとあるやうですが、さてそれを謙虚な質問といふ形に表はしてみやうとすると、これが非常にむづかしいのです。自分では疑問のつもりであるものが、質問の形に表はしてみやうとすると、いつのまにやらチャンと疑問に解答を与へてゐる不思議な自分に気付くのです。つまり僕の文学上の疑惑は常に「自問自答」といふ形にすつかり馴らされてゐて、唐突に心構えを変へてみたところで十日や廿日のことでは本心から謙虚な構

えで他人に質問のできる自分でないことに気付きました。

これは甚だ不幸なことです。僕は正直にさう痛感しました。けれども反面それほど質問がむづかしいことに改めて気付いたのでした。すくなくとも僕にとつては、まことに謙虚な質問ができるやうな大海のやうにフランクな心構えになること、そのことだけで僕の文学がすでに半分くらゐは光りある救ひのなかへ足を踏み入れることになりさうだと感じました。さうして、要するに僕はつまり終生他人に質問はできさうもなく、僕の文学は自問自答の孤独な生涯を送るのだらうと、いささか暗澹として考へたのです。けれどもこれは一に貴兄への質問といふことにあれかれと正面から肝胆を砕いた揚句、一向埒のあかないうちに遠慮会釈もなく締

切の期日がとつくに過ぎ去つてしまつたことに由来する 悒鬱極
まる自責の念が手伝つて、いささか無役に暗澹としすぎたのかも
知れません。然り、締切がとつくに過ぎ、必然の結果としてこれ
の返答を執筆する貴兄の時間が不当な短縮を余儀なくされる洵に
正義人道上我ながら悲憤慷慨せざるを得ない不埒な事態を招致す
るにしても、僕は（！）遊んでゐたのではなく、しかく真ツ正面
から肝胆を砕きすぎてゐたための不幸な結果にほかならないと賢
察（！）していただくまでのこともなく、僕の頑固な自問自答の
悪癖と、質問といふが如き地上に最も謙虚な心を必要とする至難
な事業に到底一朝一夕に着手できやう筈のない孤独児の悲劇に就
ては、先刻聡明なる貴兄が充分知りぬいておられることを、僕も

とくより知りぬいてみました！

左様なわけで質問のもてない自分に呆れかへつたのですが、そこで僕も気持ちをかへて、いつそ気軽になにか感想でも書いてみようと思ひついたので。あとで貴兄の感想を洩して下されば幸福です。

僕は時々日本人であることにウンザリします。むろんウンザリしてはいけないのですが、時々ウンザリするのです。近頃自意識過剰といふことが言はれてゐますが、我々日本人の場合これを自意識過剰といふべきや行動過剰といふべきや甚だもつて疑はしいと思はれるのです。

日本人は宗教心を持たない代りに、手軽な諦らめとあんまり筋道のはつきりしない愛他心とに恵まれてきました。元来情熱は一途に利己的なものであるやうですが、日本人はこれまで情熱を追求することを教へられず、途中で抑へ、諦らめることに馴らされてしまひ自分の正しい慾念よりも他人の思惑の方を余計氣にしたりするやうであります。その愚かしいことに重々氣付き、又憎んでゐても、長い習慣から脱けでることができません。

横光氏の作品が西洋臭いやうに言はれてゐても、なかなかさうではないやうです。たとへば西洋臭さうな「悪魔」をとりあげてみても、まづ主人公が窓ぎわで顔を洗つてヒヨツと顔をあげると前の二階に女がこつちを見てゐる、ちよつとバタ臭い場面のやう

であつて、その実この情景のあまりにも生き生きしてゐるのに驚いた私は、これが最も日本的であるからだといふ一つの考へに思ひ至つたのです。

年がら年中内攻した生活の中にくすぶつてゐる日本人には、西洋人が異性の肌直接手をふれて感じるであらう情慾を、一目見るだけで感じだすやうに馴らされてゐる傾向もあるでせう。直接話を交してのち男女理解し合ふといふなら普通でせうが、外面でんでんバラバラに生活してゐる我々日本の男女にとつては、話もせず話話を交したと同量の濃度をもつた感動を受けたりする垣間見ただけの感覚、さういふものに西洋人以上の深さと真剣味が含まれてゐるやうに思ふのは不当でせうか？ 前掲の悪魔の一情景

の如き、日本人ならではこれほど生き生きと感じ、美しく描けないのではありませんまいか？　日本人は異性同志が言葉を交し合ふだけでさへ西洋人に分らない労力と複雑な計算と、さうして西洋人同志ではてんで意味もない小さな言葉のきれつぱしにも驚くべき広がりと深さをもつて官能に理性に響きを受けることがある筈です。ここには我々をああ又かとウンザリさせるところもあるでせうが、一面当然意識していい新日本的な美があるやうにも思はれます。

西洋では男女の交際にかなりの公式があり階梯があり必然性もあるやうですが、日本ときは殆んど大部が偶然にたよるほかに仕方がないやうです。行動過少といふべきか寧ろ発表過少ともい

ふべき日本人にとつて必然的な行動とは即ち過剰な自意識の綿々たる内攻のことであり、発表や行為は全てこれ偶然——といふのはちとヒドすぎますが、然しとにかく一々の発表や行動の直後にすぐさまながしの内省批判自卑の念まで懐きがちなところから推察しても、今日の日本人には単に意見を発表するといふことすら意識の必然的な流れに比べて凡そ偶発的な相当に本人自らにとつても突拍子もないことであるらしいのは残念ながら認めないわけにいかないやうであります。

近頃唱へられてゐる長篇小説の偶然論は極めて尤もなことと思ひます。長篇小説に限らず小説にとつて新鮮な偶然ほど重大な要素もすくないやうに考へてゐるのですが、行動に型も形式もない

日本人ほど新鮮で独特な偶然を持ちうる国民があるでせうか？

悒鬱な過剰な自意識はそれ自体一向に発展性がない代りに、ひとたび飛躍を与へればあらゆる可能の彼方へ飛び立つことができま
す。

僕の考へでは一人の男を二度同じ境遇におき同じ条件を与へても決して必ずしも同じ行為をせぬばかりでなく、まるつきり反対の
ことさへやりかねないと考へてゐるのです。我々は常に無数の
返答、無数の可能をもつてゐます、そして、ちよつとした紙一重
の気配の相違でまるつきり反対の思ひもよらない表出をとること
があつても、それは有りえないことではありません。これは日本
人に限つたことではないのです。けれども行為に馴れない日本人

には特にそれが可能のやうです。

ジイドはロシア人の愛と憎悪の激しい轉換を指摘してゐますが、年がら年中内攻してゐる日本人、異体えたいの知れない不当な自卑にギユウギユウうなされてゐる日本人には、愛と憎悪の轉換くらゐてんで目新らしいことでさへなく、自卑が一瞬にしてドンキホーテの夢となり、帝王の自恃となり世界を相手の憎しみとなり、なにしろちよつと考へただけでも実にはや忙しいことではありませんか。

先刻日本人であることにウンザリしてゐると述べたくせに、ふと気がついたら日本人であることをひどく嬉しがつてゐるやうです。我ながら呆れました。これも日本人であるための可能の国

の出来事ですか！ まったく、可能の日本人を考へると実に新鮮で愉快ですが、自分の現実の日本人に気がつくつと、ウンザリせず
にゐられません。

日本人の精神生活を性生活にたとへると全くオナニズム的ではないでせうか？ 性的な意味だけではなく、日本人の小説を読んでみると打たれる美の多くのものがオナニズム的な傾向を多分にもつてゐることに僕はよく気付くのです。けれども日本人が年中オナニズムにふけつてゐるわけではなく、あたりまへの性生活だつてチャンとやつてゐるやうに、日本人の小説も所詮オナニズム的であることはまぬかれないとして、もつと積極的な行為の生活へはいつてゆく必要はあるでせう。

いや、何を言つてゐるのだから自分ながらわけが分らなくなつてきました。質問の要素なんて、てんでどこにも見当たらないに相違なく書けば書くほど恐縮するばかりですが、それでは健蔵兄、今更仕方がありませんから僕から右様の手紙を受けとつたことにして気軽な返事を書いてくれませんか？ 貴兄の日本人に就ての感想をきかせて下さい。外国文学専攻の貴兄から我々と立場の違つた日本人観をきかせてもらうのは嬉しいことです。

僕が稚拙な饒舌を弄して多少とも話を日本人にふれさせたのは、文学に於ては欧洲的な方法がもはや一つの行詰りを示してゐて、我々が新らたに出発するためには全然別の発足が必要であり、然して我々が日本人であることがそのことの大きな強味になりはし

ないかと思はれたからです。けれども僕は従来の最も日本的な枯淡の風俗やらさびとやらいふものには全く絶望してゐます。むしろ激しい反感を持つてゐます。僕の日本といふ意味がさういふものでないことは稚拙ながら今迄の饒舌の中から推察してもらへると思ひます。さうして、僕の意味する日本的なることが然そういふ新らたな発展に結びつかうとしてゐるために、特に貴兄のやうな外国文学に堪能な士から日本人をききたいといふ僕の微意も分つていただけるでせう。妄言多謝。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集 01」筑摩書房

1999（平成11）年5月20日初版第1刷発行

底本の親本：「作品 第六卷第七号」

1935（昭和10）年7月1日発行

初出：「作品 第六卷第七号」

1935（昭和10）年7月1日発行

※新仮名によると思われるルビの拗音、促音は、小書きしました。

入力：tatsuki

校正：noriko saito

2009年4月19日作成

2016年4月4日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

日本人に就て

——中島健蔵氏へ質問——

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 坂口安吾

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>